

天竜川下流国営施設応急対策事業 浅羽揚水機場建設工事

浅羽揚水機場は「国営天竜川下流土地改良事業」(昭和42年度～昭和59年度)により造成され、浅羽地域を中心とした水田約1,000haに配水する地区内最大のポンプ場です。造成から約40年が経過し、施設の老朽化や機器の故障リスクが増大していることから緊急な対応が求められ、令和3年度より国営施設応急対策事業「天竜川下流地区」が着工されました。本工事は農業用水の安定供給及び施設の維持管理に係る費用と労力の軽減を図り農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するため、新設機場を整備するものです。

工事内容は、既設機場の隣接地において新設揚水機場(RC構造、地上2階・地下1階、建築面積508㎡、延床面積756㎡)、吸込水槽工及び取水口、送水管路工、外構工等を行うもので、工事期間は令和5年2月から約2年間となります。現場周辺は市道が隣接しており近隣家屋も近いため、振動、騒音、粉じんなど地元住民に配慮しながら慎重に工事を進めています。工事期間中も既設機場において取水及び配水を行うため、施設稼働の支障とならないよう工事を進めていく必要があります。また、非かんがい期には既設ファームポンドの改造や送水管路の切替えが控えており、タイトな工程管理が求められます。現在、工事は序盤ですが、年末にかけて機場本体工事が本格化してきます。営農を止めることなくスムーズに新機場に移行できるよう、施設管理者及び発注者と協力し、安全管理を徹底するとともに高品質のものが残せるよう努めてまいります。



監督職員からのエール

本工事は、天竜川下流地区の左岸側末端部に位置する浅羽揚水機場の老朽化対策及び大規模地震対策を目的とした工事です。

現場周辺には住宅地もあることから、振動、騒音を発生する作業は極力抑えるための施工方法を選定するなど、地域住民の方々に配慮した慎重な工事施工を行うことを心掛けていただいています。

また、工事履行期間中、既設揚水設備を利用しながらの施工となるため、かんがい用水の送水に支障とならないよう、関連工事業者と協力しながら工程管理を行っていただいております。

今後、秋から冬にかけて本格的な建屋建設工事が始まり、現場で働く作業員も増えていきます。工事故が起らないように現場代理人の青山所長をはじめスタッフのみなさんの緊密な協力体制の下、安全で高品質な施工となるよう期待しています。

現場代理人

(写真左) 青木あすなろ建設株式会社

農政浅羽作業所長 青山 裕之

監督職員

(写真右) 関東農政局 西関東土地改良調査管理事務所

保全整備課長 中田 一成

